

## 第 11 回「やまだ塾」

昨日 4 日午後、八尾で「やまだ塾」を開催した。会場で「地域コミュニティカフェ yotteko」のヴィーガンランチを食べた。いつもはスパゲティだが売り切れなので、大豆ミートの唐揚げプレートにした。これも美味しかった。「地域の食材を使った、からだと環境に優しいランチ」だ。売り上げの一部は子ども食堂の運営費に充てるという。八尾の若者にエールを送りたい。



いつものように、まず私から資料をもとに話題提供した。『ジャーナリスト』『月間マスコミ評』に寄稿した拙稿により衆院選を振り返った。この拙稿は前回の塾での報告と議論をもとにしている。12 月 3 日レポート「新型コロナ禍における大阪府知事のメディア政治」と毎日 11 月 29 日夕刊「宇沢弘文の遺言 今こそ」を紹介した。



今回の議論の中心は、大阪市 24 区と選挙制度であった。3 日レポートで、北村亘・大阪大学教授は大阪維新の会のパワーの源泉として、3 つの研究の流れを整理している。第 2 の流れとして、選挙政治から維新の会の強さを説明する研究をあげる。大阪府議会では小選挙区化が進み、維新が過半数を占めているが、大阪市議会では行政区単位での中選挙区のみであり、過半数の議席を占めたことはないとしている。大阪府議会では、さらに定数削減の動きがある。大阪市議会の定数が気になり、すこし調べてみた。

現行定数は 83 であり、その内訳は 6 人区 1、5 人区 4、4 人区 5、3 人区 9、2 人区 5 となっている。6 人区は平野、5 人区は淀川・東淀川・城東・住吉、4 人区は北・生野・住之江・東住吉・西成、3 人区は都島・中央・西・港・西淀川・東成・旭・鶴見・阿倍野、2 人区は福島・此花・大正・天王寺・浪速の各区である。議員 1 人当たり人口は、全市で 3 万 3190 人、最大は港区の 4 万 501 人、最小は天王寺区の 2 万 7405 人となっている。2019 年の市議会選挙で当選した議員について、党派別の得票順位を整理すると次のようになる。住吉区の「無投票」当選者は除く。維新は 1 位 21、2 位 8、3 位 7、4 位 1、5 位 1。公明は 2 位 8、3 位 4、4 位 5。自民は 1 位 2、2 位 4、3 位 7、4 位 2、6 位 1。共産は 5 位 3 人。無所属は 2 位 3 人、4 位 1 人である。議席数だけでなく得票順位でも、維新の強さが際立っている。

こうした市議会定数や選挙結果をどう考えたらよいのか、24 区制などと関連づけて議論した。大阪市の区制の変遷、他都市との比較により分析していきたい。今朝の大阪日日に、公明大阪市議団「総合区」協議に意欲、当初慎重も維新に歩み寄りという見出しの記事が掲載されていた。先日、松井市長が撤回した現行の 24 行政区を 8 総合区に再編する条例案をめぐる新たな動きだ。この動きにも注視していかなくてはならない。

(2021 年 12 月 5 日)